

平成17年度資源評価票(ダイジェスト版)

標準和名 ムロアジ類

学名 *Decapterus spp*

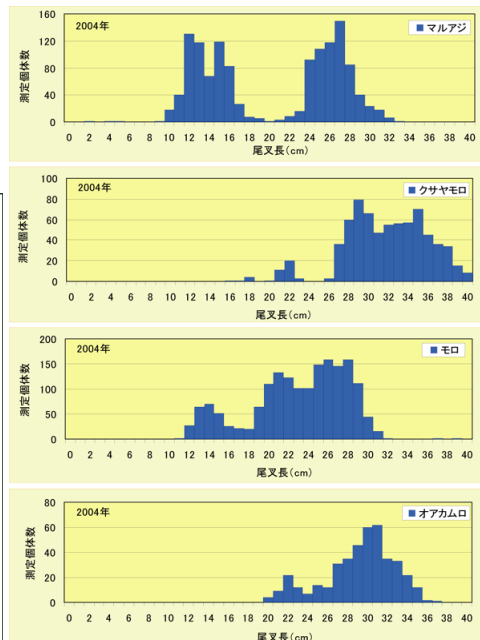
系群名 東シナ海

担当水研 西海区水産研究所



生物学的特性

寿命: 5～6歳程度
成熟開始年齢: 不明
産卵期・産卵場: 春～夏季に産卵する魚種が多い、東シナ海の広い範囲で産卵するが魚種により異なる
索餌期・索餌場: 不明
食性: 動物プランクトンを主体に捕食
捕食者: 大型魚類や哺乳類

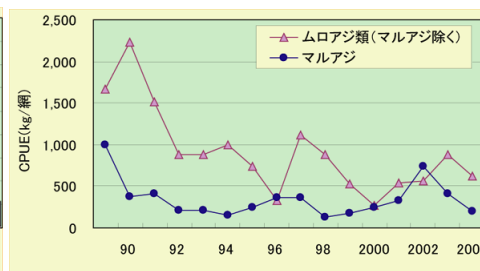
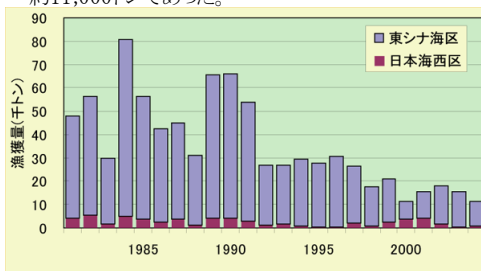


漁業の特徴

大中型まき網および中型まき網により漁獲され、大中型まき網が漁獲量の約5割、残りの多くを中小型まき網が占める。東シナ海で多く漁獲されるムロアジ類は、マルアジ、モロ、クサヤモロ、オアカムロ、アカアジである。中国もムロアジ類を多く漁獲している。この海域におけるムロアジ類の漁獲量を県別でみると長崎県と鹿児島県の漁獲量が多い。

漁獲の動向

東シナ海区の漁獲量は1984年の約76,000トンピークに一度減少したものの、1989、1990年に約60,000トンを超える漁獲量があった。その後減少を続け、2000年には約10,000トンを下回った。日本海西区における漁獲量は、多くても約6,000トン程度で、1997年以降、増加傾向にあったものの、2002年からは減少に転じ、2003年は約500トンにまで落ち込んだ。日本海北区は、200トン以下の漁獲量で、2004年は120トンにとどまっている。2004年の合計漁獲量は約11,000トンであった。



資源評価法

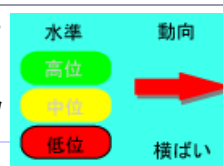
ムロアジ類漁獲の大きな割合を占める大中型まき網および鹿児島県主要港の中小型まき網のCPUEの動向から資源水準と動向を判断した。なお、大中型まき網ではムロアジ類はマルアジとその他のムロアジ類の2つに、鹿児島県主要港ではマルアジ、オアカムロ、アカアジ、この3種以外のムロアジ類の4つに分けて漁獲情報の収集がなされている。

資源状態

大中型まき網のムロアジ類(マルアジ除く)のCPUEは、1990年を境に増減を繰り返しながら減少傾向にあり、最近5年間でみると漸増傾向にある。大中型まき網によるマルアジのCPUEは2003年以降減少しており、最近5年間でみると横ばいである。また、いずれも水準は低い。鹿児島県主要港での中小型まき網によるムロアジ類(マルアジ、アカアジ、オアカムロ除く)のCPUEは2000年以降は増加傾向にあるが、マルアジは減少、アカアジ、オアカムロは横ばいで、魚種により傾向が異なる。

管理方策

資源量の指標値の動向から、現在の資源量は低水準であるとみられる。しかし、ムロアジ類については複数魚種が含まれ、それぞれの資源動向を正確に判断することは困難であるので、現状では資源の指標値に合わせて漁獲すること



が現実的であろう。全体としてみると、資源水準は低位だが、動向は横ばいとみられるので、現状程度の漁獲量は妥当であると判断した。

	2006年漁獲量	管理基準	F値	漁獲割合
ABClimit	15千トン	Cave3-yr	-	-
ABCTarget	12千トン	0.8Cave3-yr	-	-

資源評価のまとめ

- ムロアジ類には複数種が含まれ、種毎の生物学的特性および資源指標が不明である
- 資源水準は低位で、動向は横ばい傾向にある

管理方策のまとめ

- 現状では種毎の漁獲量ですら把握できないので、資源の指標値にあわせて漁獲することが現実的である
- 東シナ海全域での資源状態の正確な把握には、関係国間の協力が必要である

資源評価は毎年更新されます。
2005.12.19更新